

授業科目名	劇場文化と舞台技術	担当教員	杉山 至 河村 竜也
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 1 クォーター		
講義内容	この授業では、劇場文化を支えるための要事を、講義を中心に、また劇場施設内の機材等を実際に目にしかつ触れながら、学習する。劇場での創作や実演を成立するためのチームビルディング、心理的安全性、マネジメントやスタッフワーク、舞台上や客席の機構・設備、大道具や照明や音響等の機材・資材・システムなどについて、講義と実見、使用を通じて学ぶ。それにより、劇場文化の根底に劇場の運営・管理・技術、創作環境の適切な構築が深く関わっていること知り、またその知見の活用において必須の用語や安全性を習得する。		
到達目標	劇場文化とは何か、その社会的役割とは何かという本質的なことの認識とともに、劇場の文化を支える根底に、技術的な事柄や守るべき安全性のあることを理解し、また舞台や照明や音響等に関する基礎的な用語やシステムの組成について説明することができる。		
授業計画	【1 回目】 1/授業ガイダンス、2/実習棟ツアー&現場体験 3/リスクマネジメント、心理的安全性 【2 回目】 1/スライドレクチャー「劇場文化をつくりだしてきた空間・場について」2/ミニワーク・ディスカッション「劇場文化とは？」 【3 回目】 1/舞台芸術に関する仕事について 2/総合芸術の総合性について 3/チームビルディング 【4 回目】 1/劇場と舞台音響（仮）、2/劇場での現場体験 【5 回目】 1/劇場と舞台照明、（仮）2/劇場での現場体験 【6 回目】 1/劇場と技術監督 公共劇場での具体的取り組み（仮）  （順番は前後する可能性あり）		
事前・事後学習	参考文献を含めて、配布資料の予習・復習を入念にしておくこと		
テキスト	授業毎に資料を配布		
参考文献	「舞台技術の共通基礎」劇場等演出空間運用基準協議会 PDF あり http://www.kijunkyo.jp/img/archives/guideline2017_2020.pdf		
成績評価の基準	授業の参加態度 50%、レポートの充実度 30%、用語や安全性等の習得度 20%		



履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	
備考欄	劇場の機構や機材に触れることもあるので、服装等については指示をすることもあります